

2019年1月1日  
61号

# かけはし

ひたちなか総合病院広報誌

発行所 株日立製作所ひたちなか総合病院  
〒312-0057  
ひたちなか市石川町20番1  
TEL 029(354)5111  
発行人 飯嶋和秀  
編集 広報委員会  
<http://www.hitachi.co.jp/hospital/hitachinaka/index.html>

## 新年のごあいさつ



院長 吉井 慎一

新年あけましておめでとうございます。皆様方におかれましては、清々しい新年を迎えられたことと心からお慶び申し上げます。

昨年は、地域包括ケアシステム構築に向けて、行政、医師会、介護施設が中心となって議論されてきました。当医療圏からは水戸医療圏に約40%の患者さんが流出していますが、終末期を含めた最後の医療・介護を、住み慣れた場所で迎えたいと地域での医療・介護を希望する患者さんが増えています。これらを支える医療資源は、訪問診療や地域包括ケア病棟を含め大きく不足しています。当院は302床のうち急性期病床は252床の中規模病院です。昨年より急性期病床は満床になることが多く、地域の急性期患者の紹介や救急車の受け入れが困難になることが度々あり、地域の皆様方、医療・介護関係の方々には、大変ご迷惑をおかけしました。当医療圏は公的病院が少なく、急性期病床の機能分化は、私立病院を含めた本格的な議論は行われていません。当医療圏の急性期病床は約1,300床ありますが、これらの病床から地域包括ケア病床、あるいは介護医療院を含めた慢性期病床への転換が議論されていないため、今年は、保健所を含めた行政、医師会と協力して、地域包括ケアシステムを実現させていくための具体的議論が必要になると考えています。

当院は、昨年2021年度に向けた当院のめざすべき方向性を掲げました。「①地域密着型の急性期基幹

病院の方向性を打ち出すこと」、「②教育基幹病院として、質の高い医療を提供すること」、「③企業立病院として、地域貢献に協力すること」の3項目です。企業立病院として、昨年末から来年度にかけて、当社が参加する2つの大きな国のプロジェクトへの協力を行っています。「大規模診療データの収集と利活用に関する研究」と、「AIホスピタルによる高度診断・治療システム」という研究です。大規模診療データの収集に関しては、当院が日本で初めて患者さんからの承諾を含めたデータ転送を行います。AIホスピタル構想に関しては、AIを用いた医療現場向けスマートコミュニケーション技術の開発というテーマで、検証病院として協力します。企業の社会的貢献に、当院が協力できることは積極的に協力していく方針です。

昨年は、4月より主要診療科で医師の退職がありました。特に外科で6名減、循環器内科で2名減、消化器内科で1名減となりました。不安な立ち上がりでしたが、当院の医療の総合力の高さで、何とか皆様のご期待に最低限はお応えできたかと思えます。今年は、4月から外科専門医が2名増員、内科専攻医を3名採用、泌尿器科医が1名増員、整形外科医が1名増員予定です。初期臨床研修医も当院採用で7名が決まり、前年度より診療の充実が期待されます。地域密着型の急性期基幹病院の使命として、できるだけ紹介患者や救急車の受け入れを行っていきたくと考えています。

最後になりますが、この一年間の皆様方、ご家族のご健勝とご活躍を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。



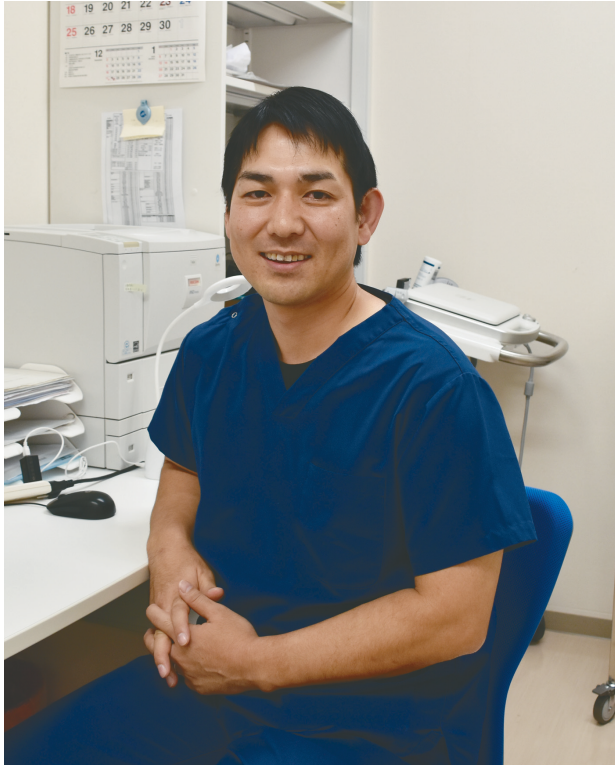
## ひたちなか総合病院・総合健診センター休日のお知らせ

	日	月	火	水	木	金	土		日	月	火	水	木	金	土		日	月	火	水	木	金	土	
				①	②	③	④	⑤							1	②								
1	⑥	7	8	9	10	11	12	2	③	4	5	6	7	8	⑨	3	③	4	5	6	7	8	⑨	4
月	13	14	15	16	17	18	19	月	10	11	12	13	14	15	16	月	10	11	12	13	14	15	16	月
	20	21	22	23	24	25	26		17	18	19	20	21	22	23		17	18	19	20	21	22	23	
	27	28	29	30	31				24	25	26	27	28				24	25	26	27	28	29	30	
									27	28	29	30					28	29	30					

■はひたちなか総合病院休日 ○は総合健診センター休日  
※4月のカレンダーについては、現時点での予定です。



## リハビリテーション科



リハビリテーション科 海老原 一彰

ひたちなか総合病院リハビリテーション科は、常勤医（リハビリテーション科専門医）1名、理学療法士31名、作業療法士25名、言語聴覚士9名、回復期リハビリテーション病棟看護師16名、介護士11名、ソーシャルワーカー4名（回復期リハビリテーション病棟専従1名）の体制でチーム医療に取り組んでおり、他の診療科とも連携しながら、急性期または手術後の患者さんに対しても早期から積極的にリハビリテーションを実施しています。また、当院は急性期病院でありながら回復期リハビリテーション病棟に病床を50床有しており、回復期リハビリテーション病棟の人口当たりの病床数が全国最下位という茨城県の現状において、地域における回復期リハビリテーションの中心的医療機関として、院外からも多くの患者さんを受け入れています。

回復期リハビリテーション病棟では、主に脳血管疾患、脳外傷、骨折、脊髄損傷などが適応疾患となっていますが、重度の高次脳機能障害や嚥下障害を呈した患者さんでも対応可能であり、機能障害の改善や日常生活動作の獲得をめざしたりハビリテーションを365日休みなく提供することで、在宅復帰率80%以上という実績を維持しています。

また、リハビリテーション科外来では、脳血管疾患後の上下肢痙縮に対するボツリヌス療法を行う専門外来や、小児領域も含めた各補装具の処方を行う装具外来も開設しており、急性期～生活期、小児～高齢者まで幅広い患者さんに対してリハビリテーション治療を行っています。

今後も、専門的なリハビリテーションを行える医療機関として地域との連携をより深めていき、リハビリテーション科専門医の管理の元で、個々の患者さんのニーズに応じた質の高いリハビリテーションの提供を続けていけるよう、努力していきたいと思っております。





## かかりつけ医相談コーナー開設しました

「かかりつけ医」とは、「なんだか体調が変だなあ」と思ったとき、真っ先に相談できるお医者さんです。そのためにも、予防も含めて普段から気軽に何でも相談できる関係を築くことが大切です。

適切な医療を望むとき、「かかりつけ医」の診療や相談は、大変心強いものになります。総合病院に直接訪ねる前に、「かかりつけ医」と相談することで、より効果の高い治療へとつながります。

当院の患者さんで、「かかりつけ医」の先生を探したい方は、まず、医師、看護師にご相談ください。その後、登録医の先生をご紹介させていただきます。



## 地域の先生紹介 アイビークリニック

### ●当院の歴史と特徴

当院はバブル景気の真只中、1989年3月1日に開院しました。3年後、バブル崩壊により多くの中小病院が閉院し、当院も閉院すべきか迷いました。しかし、この時期に新しい老人福祉政策が計画されている事を知りました。少子高齢化が予測され、将来、老人介護は国が担当せざるを得ません。当院は1995年7月7日に老人保健施設を併設して国策の一翼を担う事にしました。

現在政府は、福祉財源の不足から在宅を強要していますが、医師、看護師、介護士がベッドサイドにいるのは長くて1時間、残り23時間は家人が犠牲になるのです。基幹病院で治療が終了しても、老人に限らず自活できない人は少なくありません。当院は、若い人々の生活を崩壊させないためにも、そうした患者さんの受け皿となることに存在意義があると考えています。財源の問題は将来必ず解決できます。末筆ながら株式会社日立製作所ひたちなか総合病院にいつもお世話様になり感謝申し上げます。

### ●院長の横顔

広島県出身

1970年 東京大学卒業

1970年～1979年 東京大学医学部附属病院  
胸部外科在籍

1979年～1985年 広島市立広島市民病院勤務

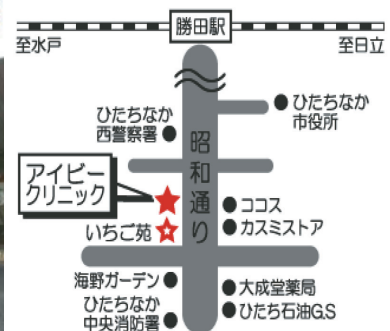
1985年～1989年 埼玉医科大学

総合医療センター勤務

1989年～現在に至る アイビークリニック院長



医療法人 蔦会 アイビークリニック  
介護老人保健施設 いちご苑  
理事長・院長 井上 宏司



## 診察・検査の予約お問い合わせは地域医療連携室へ

(株)日立製作所ひたちなか総合病院  
茨城県ひたちなか市石川町20番1  
TEL 029-354-5111 (代表)

8時15分～16時30分 (平日月曜日～金曜日)  
TEL 029-354-5202 (直通)  
FAX 029-354-5220 (直通)

## ロコモ予防プラス

リハビリテーション科 理学療法士 佐藤 誠

家の中でつまずいたり滑ったりする、階段を上るのに手すりが必要である、横断歩道を青信号で渡りきれない、15分くらい続けて歩けないなどがみられる場合は、ロコモが疑われます。ロコトレプラスで、いつまでも元気な足腰で生きがいのある生活をしましょう。

### 【ロコトレプラス①：ヒールレイズ】



つかまるところがある場所で行う姿勢はまっすぐ

立った状態から踵を上げ、ゆっくりと元に戻す  
10～20回程度  
1日3セットが目安

### 【ロコトレプラス②：フロントランジ】



上体は胸を張ってよい姿勢を維持

踏み出した足を元の位置に戻す  
左右5～10回程度  
1日3セットが目安

## 感染症の予防に努めましょう

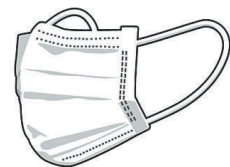
気温や湿度が下がる冬は感染症に注意が必要です。細菌やウイルスは低温を好むため、夏に比べて長く生息し感染力も強くなります。湿度が低いと咳などの飛沫が遠くまで届いてしまうため、感染スピードが上昇します。寒さのため水分摂取量が減少し、のどの乾燥が強くなるため、細菌やウイルスに感染しやすくなります。感染経路は「飛沫感染」「空気感染」「接触感染」ですが、予防法としては手洗い・うがい・マスク着用です。



マスクの着用は、のどの乾燥を防ぐ効果もあります。しかし、マスクだけでは完全な感染予防にはなりません。マスクをきちんと付けることも大切です。マスクと顔の間に隙間ができてしまうと、細菌やウイルスが侵入してしまいます。正しいマスクの着用方法をご紹介しますので実践してみましょう。①顔にフィットするサイズのマスクを選ぶ ②マスクのヒダを伸ばして鼻と口を完全に覆う ③鼻の形にワ

イヤを折り曲げる ④なるべくマスクの表面には触らない（表面にウイルスなどが付着している可能性があるため） ⑤マスクをはずしたら、手洗いとうがいを行いましょう。

体力の低下を防ぐために、バランスの良い食事を心がけ、睡眠も充分とってください。平成最後の冬を快適にお過ごしください。



### ◆ ◆ ◆ 医師異動の紹介 ◆ ◆ ◆

診療科	氏名	異動日
臨床研修医	福 蘭 隼	退職 (2018.10.31)
	大 枝 由 依	退職 (2018.11.30)
	渡 邊 智 裕	退職 (2019.1.3)
	松 村 文 明	採用 (2019.1.4)
	上 田 千 紘	採用 (2019.1.4)
	山 中 俊	採用 (2019.1.4)